



2

【ひろばの風】

健康社会学部がめざすもの
—現代人間学科の開設によせて
聖カタリナ大学・健康社会学部長
大黒屋 貴稔

大学・同短期大学部と愛媛県立北条高等学校
との高大連携に関する協定 調印式

3

【Campus News】

- ・『第59回松山野球拳おどり』に
出場
- ・故ホビノ・サンミケル名誉学
長の追悼式
- ・坊っちゃんスタジアムにて国歌斎唱
- ・愛媛県立北条高等学校との高大
連携に関する協定 調印式



4

【Campus News】

- ・看護学科の学生がマレーシアで
2週間の海外研修プログラムに
参加
- ・健康スポーツ学科・馬越 千里助
教がSAGA2024・第78回 国民
スポーツ大会(剣道競技会・成年
女子)において5位入賞

他



5

【Campus News】

- ・【地域貢献】「北条秋祭り」に
参加
- ・2024年度 大学祭「繫輪～つなぎりが完成を生み出す～」を
開催
- ・「第7回スポーツ・レクリエー
ションフェスティバルin風早」を
開催

他



SCU

カタリナ ひろば

Vol.37
2025.2

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



6

【Campus News】

- ・本学留学生が愛媛の3大学留学
生で行く「おおみしま」バスツ
アーに参加
- ・愛媛マンダリンパイレーツ野球
教室を開催

他

【ご寄附のお願い】
教育振興募金のご案内

7

【ようこそ就職課へ】

就職課長代行 蔵前 純二

8

【ESSAY】

学校関係者へ
聖カタリナ大学 健康スポーツ学科長
宮良 俊行

【ゼミナールインタビュー】
看護学部 看護学科
川島 美保ゼミ

10

【クラブ紹介】

クライミング部

【教員著書紹介】

『ドイツ哲学入門』
大黒屋 貴稔
(聖カタリナ大学健康社会学部長・
ミネルヴァ書房)



健康社会学部がめざすもの —現代人間学科の開設によせて

聖カタリナ大学・健康社会学部長 大黒屋 貴稔

聖カタリナ大学人間健康福祉学部は、2025年4月から「聖カタリナ大学健康社会学部」に名称を変更するとともに、現行の社会福祉学科と人間社会学科の教育内容を発展的に融合した「現代人間学科」を新たに設置します。「健康社会学部」には、この「現代人間学科」と現行の「健康スポーツ学科」の2学科を置き、学部の教育研究をさらに進化させます。

さて、テクノロジーが目まぐるしく進化を続け、グローバリゼーションの動きも活発化する中で、私たちを取り巻く社会は日進月歩でより複雑なものへと変化しつつあります。こうした激動の時代を生きる私たちはかつてないほど大きなストレスに日々さらされており、これまでにもまして、健康リスクの高まりが懸念されるところです。人々の健康を維持・増進・回復することは、現代社会の喫緊の課題と言えるでしょう。

1948年に発効されたWHO憲章では、前文において「健康」を次のように定義しています。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態(well-being(ウェルビーイング))にあることをいいます」(日本WHO協会訳)。今もなお世界中で広く使われているこの定義から、「健康」というものが「身体」の次元のみならず、「心」や「社会」の次元にもかかわるものであることがわかります。

「心の健康」「社会の健康」「身体の健康」。これら3つの健康づくりに資する人材を輩出することを通じて、地域社会に広く貢献したい。こうした思いから、「健康社会学部」は開設されます。

このたび新たに設置された現代人間学科では、「社会・

データ」「心理・メンタルヘルス」「ソーシャルワーク」の3コースが置かれ、心と社会の健康づくりに資する人材を養成します。ここで、心の健康づくりとは、心理教育や自殺予防活動、支援者のメンタルヘルス等を推進することの謂いであり、社会の健康づくりとは、地域活性化や共生社会、ワークライフバランス等を推進することの謂いです。現代社会学科の特徴は、これらの健康づくりの基盤となる、社会学、データサイエンス・プログラミング、心理学、社会福祉学といった複数分野の多彩な専門知識・資格を得ることができる点にあります。数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)修了証明書、データサイエンス・AI実務パスポート、ITパスポート、社会調査士、認定心理士、公認心理師(国家試験受験資格「大学における必要な科目」)、社会福祉士受験資格、社会福祉主任用資格、介護職員初任者研修修了証明書等の取得を目指すことができます。

また、健康スポーツ学科では、「健康・レクリエーション」「コーチ・マネジメント」「教職」の3コースが置かれ、スポーツ・トレーニング・レクリエーション教育、生活習慣病やフレイルの予防・啓蒙をはじめとする身体の健康づくりに資する人材を養成します。中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)、健康運動指導士受験資格、健康運動実践指導者受験資格、ジュニアスポーツ指導員受験資格、スポーツコーチングリーダー資格、レクリエーション・インストラクター資格、パラスポーツ指導員(初級)資格、社会福祉主任用資格等の取得を目指すことができます。

健康社会学部で、心・社会・身体の健康づくりについて学び、現代社会が直面する喫緊の課題解決に貢献しませんか。

Campus News

『第59回松山野球拳おどり』に出場

2024年8月10日（土）、学生・高校生・卒業生で『聖カタリナ学園連』を結成し、『第59回松山野球拳おどり』団体審査部門に出場しました。

カタリナ生らしく、パワフルで統一感のある演技を披露することができました。大街道・千舟町・堀之内のそれぞれの会場では、観客の皆さんとジャンケンをする場面もあり、皆さんに楽しんでいただけたと思います。お陰さまで、優秀賞「テレビ愛媛賞」を受賞することもできました。

沿道からご声援いただいた皆さん、ありがとうございました。



故ホビノ・サンミゲル名誉学長の追悼式

9月10日（火）、キャンパス内にある修道院チャペルにて、2024年7月3日（水）に帰天された故ホビノ・サンミゲル名誉学長（享年82歳）の追悼ミサが執り行われました。

当日は、帰天ドミニコ会司祭、ジャレ神父様の司式により教職員などが参列して聖書朗読、共同祈願、聖歌歌唱等を行い、帰天されたホビノ・サンミゲル名誉学長のためにお祈りいたしました。



坊っちゃんスタジアムにて国歌斉唱

9月10日（火）、坊っちゃんスタジアムで行われた、愛媛マンダリンパイレーツvs高知ファイティングドッグスの試合にて、本学聖歌隊の有志が国歌斉唱を務めさせていただきました。

歌唱後には本学出身で愛媛マンダリンパイレーツ所属の窪田寛之投手と記念撮影をさせていただきました。

今後も、窪田投手、そしてチームの益々のご活躍をお祈りいたします。



愛媛県立北条高等学校との高大連携に関する協定 調印式

9月30日（月）、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と愛媛県立北条高等学校との高大連携に関する協定 調印式が北条キャンパスで行われました。

調印式では、北条高等学校 校長 渡邊 俊様と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 学長 坂原 明が協定書を交わしました。

今後、本学で展開されている特色ある教育・研究に関する連携、高校の授業への大学教員の派遣など様々な分野での教育連携事業が推進される予定です。

協定締結の目的・連携協力事項は以下の通りです。

1. 目的

大学と高校が包括的連携のもとに、教育・研究・文化・スポーツ等の分野で相互に協力し、学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、相互協力・連携体制を構築するために締結する。

2. 連携協力事項

- (1) 教育・研究に関する連携
- (2) 高校の授業への大学教員の派遣
- (3) 高校生の大学授業の聴講
- (4) 施設設備の相互利用
- (5) 文化・スポーツ活動及び社会活動における交流
- (6) その他、双方が協議し同意した事項

聖カタリナ大学・同短期大学部と愛媛県立北条高等学校
との高大連携に関する協定 調印式



看護学科の学生がマレーシアで2週間の海外研修プログラムに参加

看護学科の15名（4年生1名と3年生14名）が、マレーシアの地で2週間（2024年9月2日～9月13日）の海外研修に参加しました。この海外研修は国際看護学演習の科目として実施され、本学と協定大学を締結しているマーシャ大学（マレーシア）から提供されたプログラムです。

マーシャ大学は大学の中央入口に横断幕を掲げて歓迎をしてくださいり、歓迎会では、マーシャ大学の学生たちが踊りを披露してくださいました。

大学内で開催されたプログラムには、①英会話レッスン、②マレーシアの保健医療体制の講義、③シミュレーションセンター紹介（医師）、④静脈注射の管理や医療機器に関する講義（看護学科教員）、⑤リスク管理の講義（理学療法学科教授）、⑥マッサージヒーリングの講義（理学療法学科教授）、⑦スポーツ／ゲーム（スポーツ学科）がありました。本学の学生は、マーシャ大学の学生に対して日本の文化、松山の町、そして本学の看護学科をプレゼンテーションしました。

大学外のマレーシアの保健医療施設も視察しました。マーシャ病院、クアラルンプール病院、プリンスコート病院の3病院、地域の施設として、アベニュースペシャリストクリニック（専門医クリニック、透析外来、リハビリテーション外来）、エイジケア（高齢者施設）、パヤジャラス村（児童養護施設）を視察しました。

その他、バドゥ洞窟、ペテロナスツインタワー、世界遺産の町（マラッカ）なども視察しました。お別れのパーティーでは、本学学生は浴衣着用で松山野球拳おどりを披露しました。また、2週間のプログラムの様子を動画で放映していただき、最後はマレー語と日本語で螢の光を合唱しました。

この研修によって、学生たちは、国際文化交流が行え、語学力を向上させて、国際感覚を習得することができました。また、多国籍国家のマレーシアで、マレーシア人、インド人、中国人、パキスタン人、インドネシア人などと交流しました。英語を話すことに抵抗があった学生たちが、マーシャ大学の学生と英語で会話し、買い物などの生活の場で話せるようになりました。また、価値観、民族性、歴史的背景に基づく保健医療体制、衣食住を実際に肌で感じ、日本との違いを理解することで国際感覚という広い視野を身につけることができました。



健康スポーツ学科・馬越 千里助教がSAGA2024・第78回 国民スポーツ大会（剣道競技会・成年女子）において5位入賞

9月28日(土)・29日(日)に佐賀県神埼市において「SAGA2024・第78回 国民スポーツ大会（剣道競技会）」が開催され、健康スポーツ学科所属・剣道部顧問の馬越 千里助教が愛媛県代表として成年女子（3人制団体）・大将で出場し、優勝した佐賀県に敗れたものの、見事5位入賞を果たしました。



【地域貢献】松山西警察署から「聖カタリナ大学警察ボランティア」の委嘱を受けました

松山西警察署から「聖カタリナ大学警察ボランティア」として委嘱された学生たちが、防犯や交通安全、地域の安全に向けた広報チラシの配布や調査活動を開始しました。

10月12日（土）には、第1回目の活動をフジ夏目店で実施しました。

今後も防犯の日や交通安全の日に合わせ、警察や防犯協会、安全協会の皆様と連携しながら地域の安全と安心を守るための活動を続けてまいります。

警察ボランティアとしての責任を持ち、地域社会に貢献できるよう全力で取り組みます。



【地域貢献】「北条秋祭り」に参加

10月12日（土）から14日（月）にかけて開催された北条秋祭りに、学生ボランティアセンターから延べ14名の学生が参加しました。

参加者は大町区の集会所を拠点に、地域の方々と共にだんじりや御神輿を引きながら練り歩きました。

祭りを通じて地域の皆様とのつながりが深まり、慰労会での交流を経て北条への理解も一段と深りました。

今後もこの関係を大切にし、様々な行事に積極的に参加していきます。

2024年度 大学祭「繋輪～つながりが完成を生み出す～」を開催

【北条キャンパス】

10月25日（金）～27日（日）、大学祭「繋輪～つながりが完成を生み出す～」が北条キャンパスで開催されました。

10月25日（金）には、学生と教職員を対象とした学内ミサが行われました。

10月26日（土）・27日（日）の一般公開日には、生花展示、ステージショー（手話コーラス、ライブ）、スペシャルライブ（みかんモノマネショー）、子どもの遊びコーナー（保育学科）、入試相談コーナー、e-スポーツ交流会、パイプオルガン演奏会等が行われました。

【松山市駅キャンパス】

10月27日（日）、大学祭が松山市駅キャンパスで開催されました。

看護学科の学生が企画した赤ちゃん抱っこ体験、妊婦体験、車いす体験等が行われました。

なお、看護学科のオープンキャンパスも同時開催しました。

今回は大学祭と同時開催ということで、例年とは違った雰囲気の中での開催となりました。参加者の方には、オープンキャンパスのプログラムの他に、大学祭のプログラムにも参加していただきました。

両キャンパスへの多数のご来場とご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



「第7回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催

11月2日（土）、約100名の市民の皆様の参加のもと「第7回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早（主催：松山市文化・スポーツ振興財団、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部）」が北条スポーツセンターで開催されました。

このイベントは松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環で開催される毎年恒例のスポーツフェスティバルです。

当日、体育館では 親子レクリエーション大会、体力・運動測定コーナー、体組成測定コーナー、ファミリーフィットネス（エアロビクス・ピラティス・ヨガ・自力整体等）が行われました。

親子レクリエーション大会では保育学科の学生がイベントの企画・運営に携わりました。学生にとっても授業で学んだ内容を活かすことができ、レクリエーション・インストラクター資格としての役割を学ぶ良い機会となりました。

体力・運動測定コーナー、体組成測定コーナーでは健康スポーツ学科の教員・学生から健康に関する助言等を行い、健康管理や自身の体力についてご理解をいただきました。

今後も聖カタリナ大学と聖カタリナ大学短期大学部は松山市文化・スポーツ振興財団と協力し、教育機関として皆様の健康増進・健康管理を継続してサポートしていきます。



「大学コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を開催

11月6日（水）、人間社会学科の3年生が「大学コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を行いました。

夏期に研修に参加したおよそ25名が2教室に分かれて報告を行い、事業所の方々にもご臨席賜りました。



本報告会は、大学コンソーシアムえひめインターナーシップに関する授業の一環として、毎年開催しております。

学生はあらかじめ事業所からいただいた研修評価をもとに、自己の体験を振り返り、長所や課題を検討して報告の準備を行いました。

研修報告会は、自分が行かなかった事業所についての情報共有・業界研究会も兼ねており、各自、真剣にメモを取りながら聞いていました。後半に向かうにつれて活発な質疑応答もなされるようになり、就職活動に備えて大変よい学びの機会となりました。

本学留学生が愛媛の3大学留学生で行く「おおみしま」バスツアーに参加

11月30日（土）、愛媛県内の3大学留学生（愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学）で行くバスツアーが今年も実施され、本学から7名の留学生が参加しました。

大山祇神社では日本の文化、伯方の塩工場では塩ができるまでの工程を学ぶことができました。

また当日は天気も良く、しまなみ海道の景色を楽しみながら、他大学の留学生達とも交流することができました。



本学留学生が湯築小学校児童との友好交流事業に参加

12月2日（月）、台湾人留学生のサイ・ミンシさんとサイ・シンユエンさんが、「台北市との小中学校友好交流推進員」として、湯築小学校の児童のみなさんに台湾についての発表を行いました。

発表内容は簡単な中国語のレッスン（挨拶や単語）、台湾の小学校と日本の小学校の違い（時間割や給食）、台湾のおすすめ（観光地やお土産）についてです。

湯築小学校の児童のみなさんからは、“道後BONダンス”を教えてもらい一緒に楽しく踊りました。

児童のみなさんに台湾について知ってもらえる良い機会となり、また交流を通じて日本の小学校についても学ぶことができました。

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、

また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616

聖カタリナ大学 健康社会学部長選挙について

聖カタリナ大学においては、現学部長 大黒屋 貴穂教授の任期満了（2025年3月31日）にともない、次期学部長選挙を12月11日（水）に行い、大黒屋 貴穂教授が再選されました。任期は2025年4月1日から2年間です。

聖カタリナ大学短期大学部 保育学科長選挙について

聖カタリナ大学短期大学部保育学科においては、現学科長竹田信惠教授の任期満了（2025年3月31日）にともない、次期学科長選挙を12月4日（水）に行い、竹田 信惠教授が再選されました。

任期は2025年4月1日から2年間です。

愛媛マンダリンパイレーツ野球教室を開催

12月10日（火）、聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園にて愛媛マンダリンパイレーツ主催の野球教室が開催されました。

野球を通じて、子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを伝えるための活動で、本学卒業生の窪田 寛之投手（2023年度健康スポーツ学科卒業・背番号17）が参加されました。

窪田投手は、入団1年目ですが、四国アイランドリーグPlus2024シーズンで8勝を挙げ、最多勝を飾りました。また、愛媛マンダリンパイレーツ8年ぶり3度目の総合優勝にも大きく貢献しました。
2024年度成績：防御率2.73、8勝2敗、奪三振数58

これからも本学はスポーツのみならず、社会で活躍している卒業生を応援してまいります。



ようこそ就職課へ

就職課長代行 蔵前 純二

就職課では、愛媛県内企業と学生をつなぐ実践的な就職支援に取り組んでいます。今年度は、企業見学と観光体験を組み合わせた新企画「産業観光ツーリズム」を実施しました。

本企画を通じて、学生が地元企業や地域で働く魅力を体感できる取り組みを紹介します。また、後半では地元企業の採用担当者と卒業生の声を紹介する「会社訪問 採用担当者&卒業生メッセージ」をお届けします。



■地元企業の魅力を体感！産業観光ツーリズム（西条市編）

産業観光ツーリズムは、「ものづくり×観光」という新しい視点で、学生と地元企業をつなぐ就職支援モデルです。就職課と西条市シティプロモーション推進課、市内企業2社、観光施設が連携し、9月13日（金）に西条市内で実施しました。

参加した大学3年生8名は、西条市役所で地域の概要を学んだ後、企業見学と観光体験を通じて地域への理解を深めました。訪問先は、半導体製造装置用真空部品を手がける「株式会社アドバンテック」と、配管製造を主力しながらクラフトビール事業にも挑戦する「株式会社ダイテック」です。観光体験では、株式会社アドバンテックが運営する「いとまち」を訪れました。

株式会社アドバンテックでは、精密な製造工程を見学し、若手社員との座談会を通じて職場の雰囲気を知る機会となりました。株式会社ダイテックでは、製造現場や新規事業の取り組みを間近で見学しました。観光施設「いとまち」では、西条市職員や株式会社アドバンテックの社



員との交流会で地域産業と生活のつながりを学びました。学生からは「訪問前と後で地域や企業の印象が大きく変わった」といった感想が寄せられました。

就職課では今後も地方自治体と連携し、学生に地元企業の魅力を伝える取り組みを続けていきます。10月には今治市で第2回ツアーを実施し、充実した内容となりました。西条市の活動は、「えひめ企業図鑑」12月号で特集されています。こちらもぜひご覧ください！

■会社訪問 採用担当者&卒業生メッセージ

就職課では、地元企業や働くことへの関心を高めてもらうために、採用担当者や卒業生の声を届けていきます。今回は、松山空港で業務を展開する株式会社ANAエアサービス松山です。4月に入社し旅客ハンドリング業務に従事している佐伯 春妃さん（人間社会学科2023年度卒業）にもお話を伺いました。

株式会社 ANAエアサービス松山

松山空港での旅客ハンドリング、グランドハンドリング、運航支援など、空港地上支援業務を行う会社です。ANAグループの一員として、様々な取り組みでANAの翼を支えています。1人1人がお客様のために何ができるのかを考え、部署を越えた強いチームワークで「今以上にあるもつと良いもの」への実現に挑戦しています。

【採用担当者メッセージ】

私たちは「人」に焦点を当て、安全を第一にチームワークや思いやりを大切にしています。各ポジションの全員が協力して一つの航空機を出発させる達成感や充実感は、当社の魅力の一つです。チームワークを大切にできる方、そして「今よりもっと良いもの」を仲間と共に追求し続けるチャレンジ意欲や柔軟性のある方をお待ちしております。

【卒業生メッセージ】

空港内では、幅広い接客対応を行っています。お客様から声をかけていただき、その期待に応えることができ、「ありがとう」という言葉をいただけた瞬間に、とても大きなやりがいを感じます。また、この仕事は自分が学んだ分だけできることが増え、日々成長を実感できます。今は、新しいことに次々と出会いながら、楽しく充実した毎日を過ごしています。就職活動で迷っている方は、ぜひ学内の説明会に参加してみてください。少人数でリラックスした雰囲気の中、話を聞ける貴重な機会です。新しい発見がきっとあると思います！



株式会社 ANAエアサービス松山 HP



ESSAY

学校関係者へ

聖カタリナ大学 健康スポーツ学科長 宮良 俊行

我が家について

聖カタリナ大学へ赴任して今年で3年目になりました。生まれて初めての四国に住むことになります。ただ、松山市内の街中は、私のふるさと熊本市によく似ています。お城があり、路面電車が通っていて、大街道は熊本市にある「下通り」のようです。

また、今は単身赴任です。家族は妻と長男が長崎県佐世保市に住んでいます。愛媛が海に面しており、お魚が豊富でとてもおいしいのは、やはり海に面している佐世保と同じです。初めて住む場所でしたが、以上のような理由で違和感なく時には懐かしさを感じながら過ごしています。

一昨年末（2023年12月）に長女が結婚しました。寂しい思いと親としてなんとか育てたかなというひと段落ついたほっとした気持ちと複雑な感情があります。また、長男が今年度の大学受験を控えているので、どこの大学を受験するのか、合格できるのか、入学後、学費や仕送りはいくら必要なのかとても不安です。本学の学生の保護者様の気持ちが痛いほど分かります。最後に妻は茨城県の農家育ちで、今年（2025年）が結婚30周年になります。妻に関しては以上です。



学外の方へ

私はスポーツ全般が好きですが、特に小学校6年間行っていた野球と中学校から続けており、今でも指導者として関わっているバレーボールが大好きです。また、中学生の頃からいろいろな地域のマラソン大会に出ていたこともあ

り、今でもフルマラソンに挑戦しています。今年の愛媛マラソン（2025年2月9日開催）にも出場しました。

研究については、スポーツによる地域振興をテーマとして、「総合型地域スポーツクラブ」というスポーツシステムについて実践や調査を行っています。

教育について

学生には常に思いやりの心を持ってほしいと伝えています。社会に出た時、相手の気持ちを察しながら仕事をすることはほとんどの仕事に活用できるのではないかと考えています。特にスポーツは対戦相手と戦った時、相手の心や戦術を読みながら勝利への選択を瞬間にしなければならない場面が多くあります。そのようなことを経験していることは社会人としてとても役立つことであるので、常日頃、学生にはアドバイスしています。例えば、自分から挨拶ができることも相手を思いやる簡単な表現法ではないでしょうか。

このような考え方も私の大学時代の恩師であり、大学教員としての目標である都沢凡夫先生から影響を受けました。都沢先生は2015年に67歳という若さでお亡くなりになりましたが、先生に少しでも大学教員として追いつきたい。その一心で働いています。



皆さま、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

ゼミナールインタビュー

ゼミのテーマを教えてください。

主に小児看護学や家族看護学に関して、ゼミ生が興味のある研究テーマを選択しています。今年は、「服薬困難のある子どもが効果的に服薬するための工夫—効果的な服薬補助食品の選定—」「自然災害時の子どもへの身体的・心理的影響」「小児がんであることを親が子どもへ告知するときの心情と子どもの心情」という研究を行いました。

また、ゼミ全体のテーマは、『過去と未来をつなぐ「新しい自分」に出会える場所』です。このテーマは、これまでの学生の声から生まれたものです。看護学部のゼミは4年生の1年間のみとなっていますが、この1年間に学生は就職試験、臨地実習、卒業研究、国家試験といった課題を乗り越えていきます。これまでに学んだ知識や技術を統合していくとともに、自分自身の課題を克服し、限界に挑戦するという貴重な時間を過ごします。そのような中で、ゼミで学生が自分の気持ちや考えを見つめ直し、話すことで明確にし、次に繋がる行動を決めていきます。そして、次のゼミまでは、自分で決めたことを実践していきます。このような過程を通じて、学生は一皮も二皮も剥けています。これまでの学生の言葉からは、「より自分を好きになった」「今までにない自信を持つことができた」「ポジティブ全開になった」等の嬉しい言葉が聞かれています。

このように、学問的探究と人間的探求を両輪として、研究力と人間力を高めることを念頭に置いて、日々取り組んでいます。

ゼミの特徴を教えてください。

臨地実習の体験や3年までの私の授業を受けて、小児看護学や家族看護学に関する研究に興味や面白さ、魅力を感じて、ゼミを選択してくれる学生が多いです。

川島ゼミでは就職活動にも全力です。学生の病院探しは、『自分探し』だからです。エントリーシートを提出するまでの自己分析や面接練習も個別に、私も学生も納得するまで共に行っています。就職は、看護師人生の第一歩を踏み出す場として、その後の人生にとても大きなターニングポイントです。妥協せず、本当に働きたい場所に就職してほしいので、学生が志望した病院に勤務する卒業生から、試験対策や実際の仕事の様子についてお話を伺う機会を作って交流を図っています。卒業生からの具体的なアドバイスにより、不安は軽減し、より一層就職試験に励む原動力になっています。私はコーチでもあるので、コーチングを用いて、学生にあらゆる質問を投げかけます。ある学生は、「先生の質問に答えていたら、いつの間にか、自分が考えていることやその理由にも気づかせてもらえた。自分の夢がもっと好きになった」と言ってくれました。初めは保険をかけた選択をしても自分の本心に気づいて、選択変更する学生も少なくありません。今年も全員が県内外の第一志望の病院に内定しました。

卒業生も気軽に訪ねてきて、長時間話していくのも特徴の一つです。在学中だけでなく、社会に出てからも戻って来られる場所でありたいと思っています。



卒業生からの手紙

川島 美保ゼミはこんなゼミ

川島ゼミは小児の分野として、子どもの看護に関する研究や話し合いを行っています。

看護研究では、3つのグループに別れて子どもに関する研究を進めました。私のグループでは子どもの服薬補助に関する準実験研究を行い、薬を苦手とする子ども達が少しでも服薬における負担を軽減するために、身近な食品から服薬補助として有効な食品を選定しました。実際に小学2年生に参加していただいたことで、子どもと大人に味覚の違いがあることや普段から好んで食べる食品が有用であることが分かりました。本研究では「オレオ」や「ねるねるねるね」などのお菓子が補助食品として扱いやすいという結果になりました。先生からたくさんの助言を頂きながら自分たちでも議論を重ねて進めることができ、全員がやりがいを感じる研究を進めることができました。

就職活動では、履歴書の確認や面接練習などを丁寧にご指導いただき、一緒に話し合いながら考えてくださるために自分たちが納得できる方向に進むことができました。川島ゼミとして明るく、楽しく活動ができてすごく嬉しかったです。

看護学部 看護学科

川島 美保ゼミ



2024年度川島ゼミ

ゼミのスタイルを教えてください。

今年は1つの準実験研究と2つの文献研究を行いました。1つ目は、グループおよび個人で研究に取り組みますが、学び合う力を大切にするために、週に1回一堂に会して、ゼミを行っています。研究ゼミは全体指導やグループ・個別指導を組み合わせており、全体で共通する内容は全員に共有してから、各グループの指導を行います。その間も他のグループ学生も一緒に指導を聞くことにより、自分の研究を見直して修正したり、先に進んでいるグループがあると、今後どのようにすべきかが分かるので、進行が遅れているグループも次のゼミまでに、自主的に取り組んで来ます。また、各グループ内やグループを超えて、研究計画書や論文作成において、自分たちで文献のまとめ方、Excelの使い方、表の作成の仕方等を教え合ったり、お互いの研究計画書や論文を読んで、文章の意味が分かるものになっているかを確認したり、最終校正を行っており、みんなで完成へと進んでいきます。この方法を行うようになってから、全体の進行速度が早くなり、締切に余裕を持って提出できています。

2つ目は、必ず対面で行うこと大事にしており、対話をしながら進めています。

私が一方的に指導する、修正するということではなく、学生からも私からも疑問や意見、アイデアを出し合い、納得するように進めています。

3つ目は、「笑い」を大切にしています。集合ゼミでも個人面談でも雑談するなど、大爆笑しながら進めています。



ゼミ風景

クラブ紹介

クライミング部

クライミング部は2023年に新しく創部されました。スポーツクライミングは2020年に東京オリンピックで正式競技として追加され、近年話題になっているスポーツです。愛媛県には全国でも数少ない3種目揃った施設(石鎚クライミングパークSAIJO)もあり練習環境に恵まれています。部員は2名で、県内外で行われる全国大会にも積極的に参加し、国際大会出場も視野に入れ活動しています。基本的には学外の人工壁のある施設を利用し、それぞれ目標をもち、1人1人が主体的にトレーニングをしています。

2024年の9月には、2年に一度開催されるFISU世界大学スポーツクライミング選手権2024がクロアチアで行われました。本学からも2名、スピード種目の代表として選出され大会に出場しました。世界の舞台ではた



くさんの刺激を受け、まだまだ実力不足であることを身をもって実感しました。

クライミングは体だけではなく頭も使いながらゲーム感覚で楽しむことができる面白いスポーツです。聖カタリナ大学クライミング部として、さらにレベルアップできるよう、日々精進して参ります。今後ともご声援のほどよろしくお願いします。

教員著書紹介

『ドイツ哲学入門』

鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・

渡辺和典(編著)

出版社名/ミネルヴァ書房

発売日/2024年11月1日

ページ数/総数520頁

大黒屋貴穂(聖カタリナ大学健康社会学部長)



本書は17世紀から21世紀初頭の現在までを対象とした本邦初のドイツ哲学の入門書である。メジャーなものからマイナーなものまで、数多くのドイツ語圏の学者・思想家が取り上げられている。ただし、ここで思想家とは、音楽・芸術・文学・科学などの領域を含む、広義における思想家の謂いである。私は、システム理論に基づく社会理論を構想・実現しようとした戦後ドイツを代表する社会学者の1人であるニクラス・ルーマン(Niklas Luhmann, 1927-1998)の思想について執筆した。以下では、その最も中心的な概念である「作動」および「システムと環境の差異」に

ついてごく簡単に紹介したい。

ルーマンは、「心的システム」と「社会システム」という2つのタイプのシステムを対象に展開される自らのシステム理論を、「作動に基礎を置くシステム理論」と特徴づけている。ルーマンによれば、「作動(Operation)」とは、システムの構成要素の連関の中でのシステムの構成要素の生産を意味している。たとえば、「思考」を構成要素とする心的システムであれば、思考の連関の中での思考の生産が、「コミュニケーション」を構成要素とする社会システムであれば、コミュニケーションの連関の中でのコミュニケーションの生産がこれにあたる。

作動は継続する場合もあれば、しない場合もある。作動が継続し、システムの構成要素が生産されていく場合には、これらの要素は連関をなし、1つの統一体(Einheit)として形成されてくる。ルーマンはこの統一体を「システム」、これと相即的に生じる「システム以外のありとあらゆるもの」を「環境」とよぶ。この意味で、そのシステム理論の対象は「システム」そのものではなく、「システムと環境の差異(Differenz von System und Umwelt)」だとされる。

大学
ドローン動画



大学
公式LINE



※LINEのQRコード読み取り画面でスキャン
するとLINEの友達に追加されます。

大学公式
Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.37

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp